

おごせ 教育 Pick Up



越生小学校

6月17日に越生町防災無線緊急地震速報訓練に合わせ、避難訓練に参加しました。例年なら年度当初に実施する避難訓練などの安全教育への十分な時間確保が難しい状況もあり、こうした機会を活用しながら今後も教育活動を進めていきます。

梅園小学校

6月15日に梅干しづくり体験教室が行われました。1～3年生が真剣な表情で梅を洗ったり、へたを竹串で取り除いたりしました。最後には、美味しい梅干しができあがることを願って、みんなでおまじないをしました。完成が楽しみです。



越生中学校

臨時休校期間が明け、学校に生徒たちの声が戻ってきました。「新しい生活様式」のもと、生徒朝会は、オンライン会議システムを使って行いました。また、授業・部活動も本格的に再開し、一步一步、以前と同じように充実した学校生活を送れるようになってきました。



おごせっ子広場

町内の小中学校や町の行事等に参加する子供たちを写真で紹介するコーナーです。

- 梅園小学校では、『夢や希望を自分の言葉で語れる子ども』を目指す子供像に掲げ、今年度から「きれいに、ていねいに、美しく」を児童と教職員の合い言葉に、「知」「徳」「体」のバランスのとれた児童の育成を目指しています。また、子供たちが安全で安心でき、保護者や地域からさらに信頼される開かれた学校をつくるため、全教職員が「以和為貴」、「凡事徹底」の精神で努めていきます。
- 「かしこく」学力の向上と自立する力の育成
- ① 一人一人の学力を伸ばす授業を実践します。
 - ② 学び合い・教え合いを指導し、主体的に学習に取り組むように指導します。
 - ③ 人前で堂々と自分の意見を発表する力を育成します。
 - ④ 自主学習・家庭学習の意欲付けや定着を図ります。
- 「やさしく」豊かな心の育成

ズームイン教育274

夢や希望を自分の言葉で語れる子ども

梅園小学校

- ① コミュニケーションを通して、豊かな心を育みます。
 - ② 全教育活動の中で道徳的実践力を育みます。
 - ③ 読書活動や体験活動を通して、豊かな心を育みます。「たくましく」「たくましい心と体の育成」
 - ① 朝マラソンや毎月のチャレンジタイム、外遊びなどで体力（走力）をつけます。
 - ② 規則正しい生活習慣を身につけて健康な体をつくりまします。
 - ③ 何事にも挑戦し、本気で取り組み、最後までやりぬく根気強さ、たくましさを育てます。
- 「安全・安心な学校」
- ① いじめ、暴力、不登校、交通事故を「ゼロ」にします。
 - ② スクールガードリーダーや見守り隊と連携し、登下校の見守りを強化します。
- 「家庭や地域に開かれた学校」
- ① 学校運営協議会を実施し、保護者や地域との連携を深めます。
 - ② 学校応援団の活用を図ります。
 - ③ 一斉メール配信を活用し、防犯や天候変化による対応等の情報を適時適切に周知します。

越生浪漫

No. 139

越生五領遺跡 (越生東)



第1次発掘調査風景（三光産業株式会社敷地内）

当町で発掘調査第1号となった越生五領遺跡は、やまぶき公民館の裏手一帯を範囲とする縄文時代・平安時代の集落遺跡（ムラの跡）です。昭和36年（1961）に、造成中の三光産業株式会社の敷地内で発見され、翌年1月、第1次発掘調査が行われました。



第2次発掘調査風景（線路沿いの調査）

た。数日間の調査でしたが、縄文時代の竪穴住居跡が見つかり、縄文土器や石器、平安時代の土師器・須恵器、布目瓦が出土しました。昭和56年（1981）、遺跡一帯が区画整理事業地内に組み込まれたため、道路予定地を中心に、第2次発掘調査が実施されました。線路沿いの平坦地に設けられた調査区では、平安時代（9世紀後半～10世紀前半）の竪穴住居跡が1軒検出され、土師器や須恵器、灰釉陶器などが出土しました。また、第1次発掘調査でも出土した、縄文時代前期・中期の土器が大量に出土しました。

越生で初めて確認された平安時代の竪穴住居跡（1号住居跡）からは3千数百点の土器片が出土しましたが、完全に復元できたのは須恵器1点のみでした。住居として使われなくなった後、ゴミ捨て場等利用されていた可能性が考えられます。須恵器の中には、「東」が記された墨書土器も含まれていました。1号住居跡からは、熱い鉄を挟むための「鉄鉗」と思われる道具や「鉄滓（カナクソ）」が出土しています。鉄滓は「鍛冶碗形滓」という、鉄製品を鍛える際に排出された不純物であることが金属学



1号住居跡（南西方向から撮影）

的調査によって判明しています。平安時代の「越生五領ムラ」に鍛冶工人がいた可能性が高いと推測されます。昭和58年（1983）に第3次、昭和59年には第4次発掘調査が行われました。縄文時代中期（今から4千～4千5百年前）の埋設土器や2号住居跡（平安時代）が発見されました。町名地番変更前は、この一帯に「五領・中五領・神明・栃島・栗坪」などの地名がのこっていました。その中でも「栃島」「栗坪」は、室町時代にまで遡ることができる古名で、法恩寺に田畑を寄進した時の記録が残されています。



第4次発掘調査風景（上台山を望む）



やまぶき公民館の展示

（法恩寺年譜）。中世以降もこの一帯で田畑が経営されていたことが分かります。区画整理される前には「越生耕地」と呼ばれる、越生で最も広い水田地帯でした。平成元年の「越生町再発見100ポイント」にも選ばれている豊作祈願の「耕地稲荷」（越生東1丁目）はその名残です。先日、やまぶき公民館の出土品展示コーナーを「越生五領遺跡の発掘調査と出土品」としてリニューアルしました。自分の住む土地がどのような歴史を歩んできたのか、出土品を間近に観ながら、考古学の面白さに触れていただければ幸いです。